嫌疑

特別
チ12
3656
9

412
3656
9

宮内省図書寮

月のゐちうきあきなかばやく

詞

嶽葉山のゐうん　かゝはは

夫ハ秋うつろ乃ものゝそんかき

いまゝ嶽葉山をうしんかとふ

此秋おもひたち嶽葉山乃月を

乃行上ここに

なるめいやと思ひん　は雅の

ここと

志りゝ　桂居乃うわ桂ぐまゝ

たち出て中宿に着あり着して
以後よりさらなる事や実科や
嬢業山よ差よりわく　義経
所よ来てうらぬいぬ
して第里に宮も星なく千里ふ
隈なき月に乗さうとおもひ
浦まてくめり　接伴とうふ

なすすひとり宵乃月を眺りやと
おもひ人　なふくあまなる
接人い何事ぞ　ぬ
ちきやお山ぬもそくぬうと
よわも女性一人歌まてわまよ
言葉をうけたまわるふいりなる
人よしまひまひう　まはく

さ実科の衣なるかふいなよ
おみ秋乃なかいく海く城志く
月のゆ乃ふとに聖そふ天ゆ屋
くまあき四方乃気ちおいうふ
と雷乃月ゆ面白うせけらん
さそいさゝしなのひとそて
まけりやくまゆうる蹟葉乃

ミヲ
ちこいいのけくこのほとみてうう
蹟葉山ゆなふ紙とめを折ふい
わけぬ乃心なくきめうきは
ここ、ゐ
実科やをいすて出よて山月を
ゆくとなすめ人乃紙なきい
見よこたりきゆ植ゆ末の信ういう
者乃蹟葉乃ちなふ紙みてうん

とく　秋はいまはまけすて
すてをうまひとのあとの
きまゝ、お中の理学うわなる風
世とてそほくや　蕎麦の即
人乃　なゝ我心はのあわれん
なるあとまもなるとやらん
ものすきまのきは風乃　風も
なすむ　秋乃心　とそても
なくきめうきは実科やく嶮
葉山の夕暮よまつもの法も
きのこ成木乃見とわもの乃あわて
秋乃義のりやくを法くらひと
山の陰鶯もうちまる星風原しく
雲法きくきひ山の岩きき

十ヽノ二ノ　中白
うらぐく　梅ニ接人ハ以ほく
よわい花にハ情をまかう
（葉詞）
さんん花ぐい數のものみてなり
りしめて此所なきたわてく
（三下）
梅い森孫人まそまうしりや
さあらいかゝい春月とせよ殿まき
由て接人乃森遊を慰めゆ宿し

ヽ一一一ニ一一一一一一一ヽ
（三下上七九一）
うもや森遊をなくさめせとは
ニニ一一ニニ一一ニ一ニ　（三詞）
情方いめす成人やう安　泳い
ニニ一一ニ一一一ニ一　（ワキ）ヽ一ニ
わまい更科乃秋　さそとい又
一一一一一一　（三下）一一ヽ一一
何ますり　すミあといりんハ
一一一一一一　（ワキ）一ヽ一一一ヽ
こう錺やき孫　おりしおひたる
（三下）
一一一ヽヽ　（上三万月）ヽ一一ヽ一一
なもいすそ孫　う錺といちんも
一一一一ヽ一一　一ヽニ一ニ一一
志後りしやぐ一もいすへも

すてゝ秋て乃ゝひとわけ山ま
ゝ
はゝ月ゝなの秋ゝとに桃心乃
ゝ
圖をりゝさんとゝ雪ゝゝれ
ゝ
出ゝとわとゆふうけゝ末乃本ま
ゝ
うきをゝやうゝ失ゝくゝく
上ち
ゝ
夕ゝけゝくゝ月影乃ゝくゝゝや
ゝ
ゝてゝうめて面面や家里の宮ま

くまなくて乃ゝくゝの秋も傾て
ゝ
あきゝゝろもすゝ衆もゝゝりゝ
下
三名衆中ゝ新月乃ゝゝ二ゝ里ゝ
下
ゝ
ゝ乃吉人乃ゝゝ　芭面面乃
ゝ
折ゝゝゝゝ芭面面の折りゝゝゝ
サヒ
あきゝゝ又秋乃ゝ雪もすきぬ面
ゝ
こよひの月乃ゝゝゝきゝのゝ

[illegible]
[illegible]
なぎさふく秋待ちてたちぬ
[illegible]
なぎさをもちる月ぞ[illegible]ふも
[illegible]
おかえぬかとふ隈もなふ蓬葉
[illegible]
山乃秋ぞ月ぬふたらぬ心とや
[illegible]
むとたまもおもぬそや
[illegible]
[illegible]きやふ新あてまそふ月ぞ
[illegible]
衆よ白衣乃女人歌またまのふい

[illegible]
夢の歌うおかたうあ　蓑とは
なとや夕答よ歌まを　老乃
すうとを　[illegible]なうまたわ
[illegible]
はをの法[illegible]れ秋ふうれ京うわ
[illegible]
所もをいすてぞ　山い老女う
[illegible]
位所ぞ　者よ[illegible]ふ秋乃衆ぞ
[illegible]
月乃ぐも人きのとぬして　蓑を

しき花をおきふす袖の露乃
さらも以往く秋来遊ぶ人より
いたまずらめてうはらきたや
きうわぬきたる女郎花ぞく
草衣志のたまきて起しそり
すうう秋し雑乃かをきらってて文
蘋葉秋やさ小出て雨を更科乃

月ふ見ゆるも恥しやよしや
何事も夢乃世乃中といいし
思ひしや思ひ草花ふめて月ふ
うかえてありさらん きすや奥よ
のう秋て来わくふ流きて梅里
しもて秋搦みとらまつる
ふ雪秋空乃気色この那 従るふ

月乃名所多くハあまたと更科や
姨棄山に曇りなき一輪そゝる
清光秋にうけ圓にとして海嶠を
ちるなは志まこと諸佛乃法燈ひ
同ま勝業をけまセ超世乃悲願
普き済度乃光明に志くハなし
志雅に三光西に行事ハ衆生

をして西方にすゝめいまセか
ためとかや月ハ如来の右脇
脇侍としてゝ孫をとして導き
おもき罪をのろせける天上乃
ちうし残う法故に大勢至は
号ほとる天冠乃冨りなゆの
ひかりかゝやき出の壷乃数ゝよ

他方の浄土を願しる玉緒橋乃
風の音衆鳥の声に
うろひかなくうつもあわれ
きくふ咲まし陸奥乃池に
庭やなすこ赤に花ちるて茶芽
志きわり見たまうわ　遠渡
歌御に歌ひあ者を尋へて
も語ふもふ孔雀鶯に同く
鳴る香に花乃ちうひうわも
う笠をしあへてうくらぬ
くまもあけき い無色光ゆ
なに笠ゆわ志うまとも雲月に
あ時いうけ乃ち又あ時
うけうくあ者乃世中乃

〽本
こたゑ乃なきこそしるしなれ
物し恋しき来遊お袖　我心
ふかくそめりしきさらしなや
上地
姨棄山りて照月をみそく
〽本
月よな積もる小戯ふ秋草お
露乃まの小　露おさのみなまく
ふよしに取まて胡蝶おあうひ

〽本下
たはふれ蝶乃袖　うんさや
上地
返さ　昔乃秋を　思ひ出うる
家桃おさらふ埋や阿うこともなきな
こよひ乃秋風みよ志こくと
恋しき物し志乃ゐしきい
閣淨おあきよともよとおもひ
わきい来もすてよまうくと

、、、、、、、、、、
やあさまのすまなわぬまい
元　、、、、、、、、、
わまもやくさひとひとりもうへ法
、、、、、、、、、、
法よ　ひとわ捨てて老女の
上月　、、、、、、、、、、
蕾ちうあらうめてもきのふ嫁菜山
、、、、、、、、、、
ようなわよりくるをいすて山と
、、、、、、、、、、
なわよりく法